

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

いい人・いい音

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

第26号

2021年1月4日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団
編集：専務理事・事務局長 壁谷 章 可
住所：〒163-0633
東京都新宿区西新宿1-25-1
TEL: 03-3349-6194
FAX: 03-3345-6388
<https://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>

進化し続ける名器



©ヒダキトモコ

弦楽器の「二大名器」という言葉を、どなたでもお聞きになった事があると思います。ストラディヴァリとグワルネリ・デルジェス、いずれも世界のヴァイオリニストが憧れる夢の楽器です。近年、その価格は高騰し、演奏家が普通に手に入る事は不可能な状況になりました。財団や篤志家などから貸与されることでしか、それらの楽器を演奏することが出来ないのが現状です。

しかし、最近では技術の目覚ましい進歩により、素晴らしい音を奏でる新しい楽器が出現するようになりま

した。それにより、皆様がご存知のような世界的演奏家、ヴァイオリニストやチェリスト、そしてクワレットが、こぞって新作の楽器を使用するようになったのです。ストラディヴァリウスやグワルネリ・デルジェスのような名器を保持している演奏家ですらそうです。

二大名器や新作も含めて様々な楽器をカーテン越しに聴き比べて、気に入った楽器を選択するといった機会も頻繁にあります。すると、大変興味深いことに、選ばれるのは、いわゆる二大名器とは限らないのです。むしろ新作楽器が選ばれることが、非常に多いのです。

ニューヨークなどに、それら新作を製作する工房がありますが、そこを訪ねますと、かつての工房のイメージを一変させるような風景が広がっています。多くの人がイメージする楽器製作の工房は、木の削りか

ヴァイオリニスト・桐朋学園大学特任教授

徳永 二男

(当財団音楽分野選考委員)

スやニスの香りのする職人の仕事場ではないでしょうか。しかし、最近の工房は、コンピューターを駆使するデザイナーや建築家のそれに近い雰囲気なのです。そこから生み出される評判の高い新作は、新作といえども注文が殺到して入手困難です。しかし、若く優秀なこれからの演奏家の皆さんが、そういった新作を手にして演奏活動を行っていく環境が整いつつあるのも事実です。二大名器を手にするために躍起になっていた演奏家たちにとって、これまでとは異なる明るい兆しが感じられるのではないのでしょうか。

いつの時代も演奏家は名器を求め続け、その芸術的欲求はとどまることを知りません。それに応えて、名器も進化し続けます。今この瞬間にも現代のストラディヴァリウス、未来のグワルネリ・デルジェスが生み出されているのです。

「海外音楽研修生費用助成」の

二〇二二年度申込受付を開始

当財団は、一九九一年六月の設立以来、「クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成」を目的として海外音楽研修や海外音楽コンクール参加のための費用の助成を行ってきました。過去三十年間の助成対象者数は、合計二〇三名です。

二〇二一年度においても、「海外音楽研修生費用」の助成希望者を公募いたしますので、助成を希望される方は主な音楽大学や音楽指導者宛に送付した「申込要領」または当財団のホームページをご覧ください、四月九日（金）までにお申し込み下さい。

助成の趣旨等

1. 助成の趣旨
わが国のクラシック音楽文化の向上のため、国際的

音楽家を目指して研鑽中の若手音楽家に対し、海外、特に欧米への留学に必要な費用の助成を行います。

2. 助成対象

海外の教育機関等に留学し、技術を練磨するとともに、その実体験を通じてさらに研鑽を深めることを志す方。（対象とする専門分野は、声楽・器楽）

- ・ 大学卒業（予定）者および大学院在籍者・修了（予定）者。なお、高等学校卒業（予定）者も可とする。
- ・ 声楽は一九八八年九月一日以降、器楽は一九九三年九月一日以降に生まれた方

- ・ 海外留学についての計画と目標が明確である方
- ・ 二〇二一年から二〇二二年十二月末までに申込書に記載された教育機関等に入学が可能な方

- ・ 研修目標の達成に必要な語学力を有する方
- ※ 既に海外に留学中の方も対象になります。

3. 助成対象人員

・ 四名程度

4. 助成金額

・ 年額二〇〇万円

・ 助成期間は原則二年

申込手続書類等

1. 申込書

・ 所定用紙による。

2. 推薦書（二通）

・ 二名の方の推薦が必要。

・ 推薦書には、次の項目を必ず記入のこと。①あて先（当財団名）、②被推薦者（応募者）の氏名、③推薦理由、④作成日（3ヶ月以内）、⑤推薦者本人の署名

3. 映像資料

・ 本人の演奏を収録したDVDを提出のこと。（ピアノおよび打楽器については楽曲の指定あり、詳細は申込要領にて確認のこと）

・ 二〇二〇年七月以降に収録された演奏であること。また、カメラアングルは固定し、以下に留意すること。

こと。

声 楽…演奏者の顔と上半身が明確に映る角度

ピアノ…演奏者の顔と手元が明確に映る角度

弦楽器…演奏者の顔と手元、弓を含む楽器全体が明確に映る角度

管楽器…演奏者の顔と手元、楽器全体が明確に映る角度

打楽器…（管楽器に同じ）その他…オルガンはペダル操作も映る角度

・ 映像と音声は同時に収録し、特に音質には留意すること

・ 映像資料（DVD）は、複数の曲目の場合は、曲目ごとに動画を作成（楽章も分けて作成）し、DVD一枚にまとめること

・ 演奏曲目の構造に応じて、その内容を申込書Ⅲ「2. 曲目と楽曲構造の内容」に経過時間を含めて必ず記載する

日 程

1. 申込期限

・ 四月九日（金）必着

・ 申込書類は簡易書留便等（配達確認が可能な方法）による郵送を原則とします

2. 選考日程

・ 第一次選考（書類・映像資料審査）は四月下旬

・ 第二次選考（第一次選考通過者に対する実技および面接）は五月二十日（木）

【開催地 東京・新宿】

3. 結果発表

・ 六月上旬予定

選 考 方 法

当財団の選考委員会で厳正に審査の上、助成候補者を選出し、その後、理事会の承認を経て助成対象者が決定されます。

詳細については、「申込要領」または当財団のホームページ
(www.meijiyasuda-gol-bunka.or.jp)を参照下さい。

海外音楽研修生レポート

「パンデミックが改めて気付かせてくれた音楽の尊さ」



(ミラノスカラ座の首席トランペット奏者と共演したコンサートの様子)

(19年度助成・声楽)

山田 花織

(留学先・クラウディオ・アバド
ミラノ市立音楽院)

2月下旬、音楽院と並行して通っているオペラアカデミーでのコンサートは3日後に控え、指揮者とのリハーサルを終えて残るはオーケストラ合わせと胸を高まらせていた矢先、北イタリアでイベントの中止、

文化施設等の閉館措置が取られ、コンサートは中止に。悲しみと同時にウィルスへの恐怖が頭の中をよぎる中、別のオーディションのため、南イタリアへ。空港に降り立ったとたん、私の住むミラノがあるロンバルディア州がレッドゾーンに指定され、そこから来た人は14日間の自宅隔離の強制。その日の夜にオーディションはキャンセルとの連絡が。さらには、州を跨ぐ移動禁止の首相令。まさか家にも帰れない?!と一瞬パニックに陥りかけましたが、幸い帰宅が理由だと許可されて数人しか乗客のいない飛行機で自宅に帰ると、本格的にイタリア全土がロックダウンに。スーパーと薬局以外の外出禁止、スーパーには2時間以上待ちの長蛇の列。そんな中で3ヶ月間自宅にこもり、オンラインレッスンと共に声と音楽に今までに無いほど真正

面から向き合い、また、語学の勉強方法や食生活の見直しなど、自分を更新していくことができ、結果的には貴重な時間を過ごせました。

夏の間は少しずつ規制が緩み、コンサートやオーディションなどもいくつか再開してきた中、あと一歩というところでなかなか思うように結果が出せずに落ち込み、更に自分と向き合う日々。

冬が近づくに連れ、再び感染者数の増加、音楽業界でもクラスターが発生し劇場の再閉鎖、そんなニュースを耳にしながらも前向きにコンクールに挑戦。ちょうど翌日から再びコンサートやコンクールの禁止令が出されたことを受け、無観客でのファイナル、「私はこんな状況の中、自分以外の誰かと共に音楽ができることは本当に喜ぶべき奇跡であり、この貴重な機会に感謝、そしてどうか一日でも早くまたこの世界に生の音楽に溢れた平和が訪れますように。」そんな祈りを込めて歌った結果、国際コンクールで初めての1位を頂きました。

そして今この記事を書い

ている翌日、明日からミラノはまた約1ヶ月のロックダウンが始まります。

この大変な時期に研修を継続できているのは非常に幸運なことであり、これを乗り越えた先に大きな成長が待っていると信じ、常に高い志とポジティブなエネルギーを持ち続け、感謝を忘れずに精進して参ります。

「ドイツの軽井沢で学ぶ音楽」



(ディルク・モメルツ先生と
ジルト島海岸を散歩)

(19年度助成・ピアノ)

秋元 孝介

(留学先・ミュンヘン音楽・演劇大学)

ドイツでの留学開始からそろそろ丸2年が経とうとしています。昨年は忌まわ

しき感染症の影響で、帰国を余儀なくされた時期もありましたが、今年はその不安なく勉強に集中できることを願いたいものです。

普段は主にベルリンとミュンヘンで勉強していますが、昨年10月は現在師事している先生の集中レッスンを受けるために、ドイツ北部でデンマークとの国境に近い、ジルト島に滞在しました。この島はドイツの富豪らの別荘地として有名で、美味しいご飯を頂きながら思い思いにショッピングなどをのんびり楽しむ、いわば軽井沢のような場所です。特段観光地というわけでもないの、見回しても辺りはドイツ人ばかりなのですが、風景はいわゆる一般的なドイツの街並みとは一風変わった異国感溢れるもので、ドイツの内陸部ではあまり頻繁に食べることのできない魚介類も、ここでは美味しく頂けます。

今回の集中レッスンでは、今後いかに先生の力を借りずに音楽を立体的に演奏できるかを多く学びました。楽譜の多面的な読み方や、より多くの音色を引き出す奏法上のヒント、そして時

には解釈を先生と共に話し合いながら、学生を卒業した後も困難なく独り立ちできる技術を取得しました。これは演奏家人生を長く送っていく上でとても重要なことであり、いずれ自分が指導する立場となったときに、目先の成果ばかりとらわれるのではなく、このような長いスパンで有効な指導をすることも大切にしていきたいと強く思いました。

昨年はヨーロッパも日本も多くコンサート中止や延期となりましたが、その間に向き合った音楽の量は、これまでの演奏会に追われていた生活とは比べものにならない程膨大で、貴財団の支援により演奏会の全くなかった期間も、安心して勉強に没頭することができました。その蓄積した一つ一つの演奏会や社会に還元できる演奏家となるべく努力したいと思っています。

「異国で生活するということ」

(19年度助成・ヴァイオリン)

小川 恭子

(留学先・ウィーン国立音楽大学)



(2019年冬、クリスマスマーケットにて)

オーストリアの首都ウィーンで学び始めて約一年が経ちました。ウィーンには留学以前から度々訪れており馴染みのある街でしたが、実際に「生活」してみると見えてくる景色は全く異なりました。

まず、留学生が必ず通る道ですが、住居契約、銀行、保険、ビザ申請等の手続きには、戸惑う事の連続でした。語学だけでなく物事の捉え方、考え方にも国民性の違いがある事を痛感します。いつもあらゆる結果を想定し準備していくのですが、たいていそれを上回る出来事が起きるのです。

ただ、思い通りにいかないという事は負担ではありませんが、一方で、自分の中の辞書が新しい事柄でびっし

り埋まっていく感覚にはワクワクするもので、なにか新しい経験をする度に、こんな贅沢な日々は今しか味わえないだろう、と満喫しています。

そんな刺激的で時にはスリリングな留学生活が、2020年春には更に予想外の方向へ向かいました。新型コロナウイルスによるパンデミックです。

コンクールやコンサート等はほぼ消滅し、留学中に多くの土地を訪れたいという夢を叶える事も難しくなりました。ただ、北海道と同等の面積、日本の総人口の14分の1程度で小回りの効くオーストリアは、国による素早い対策で感染の第一波を乗り切りましたし、学校側も学業がストップしないよう、学びを続けられる環境を早期に整えてくれたので、比較的落ち着いた気持ちで過ごせていると思います。

第二波が酷くなる前には、感染に気をつけつつも有意義に過ごそうと、ウィーン版Go To Eatキャンペーンのようなものを利用しました。国より配布された食事クーポンを使ってちよつと

贅沢なディナーを、本来は観光客で混んでいるレストランでゆったりと楽しめた事は、コロナ禍で見出せた幸せなひと時でした。

今回、世界中が同じウイルスと向き合うという特殊な状況に陥った為、なにかと「比較」する場面が多く、たくさんの方が明らかになりました。同じウィルスでもそれに対する反応や対応は実に様々で興味深いです。

このように、春以降世界中のニュースや留学仲間から情報を得ては色々な事を感じ、考える日々ですが、この特異な経験も含めて、私のこれからの音楽家人生への糧にしていきたいと思っています。

「デトモルトでの新生活」



(デトモルト音楽大学にて、ヘルテンシュタイン先生とヴァイオラ四重奏のコンサート)

(19年度助成・ヴァイオラ) 田原 綾子
(留学先・デトモルト音楽大学)

パリからデトモルトへ居を移してから、早くも一年が経ちました。頻繁に直行の飛行機が飛び、観光客などの人通りも多かったパリと比べて、地方快速電車しか止まらず、街を歩いていても地元の方しかいないデトモルトには、いつも穏やかでのんびりとした雰囲気の流れています。

駅からほど近いアパートの一室に住んでいるのですが、自室でも自由に音出しが出来るので、しっかりと腰を落着けて練習するにはもってこいの環境です。目の前には無添加スーパードアもあり、パリの時とはまた違う品揃え(フランスはバターやチーズなどの乳製品が豊富でしたが、ドイツはお肉が所狭しと並んでいるのです)にわくわくしてしまします。

心配だったビザ申請も無事に2年間分取得でき、胸を撫でおろしました。まず電話で予約するところから、ドイツ語がままならない私にとっては不安しかありま

せんでしたが、ビザ局の親切なおばさまからの「大丈夫よ、落ち着いてゆっくり話してちょうだい」という優しい言葉にほっとし、ここデトモルトでも人の温かさに触れたことがとても嬉しかったです。

そして念願のデトモルト音楽大学での勉強は、充実した楽しいものでした。ファイト・ヘルテンシユタイン先生のレッスンでは、シューベルトやブラームス、シューマンなどのドイツ音楽を中心に学んでいます。レッスンは冒頭では、テクニク的なワンポイントアドバイスもあり、自分を見直し、更に高めていきたいという意欲に毎回かき立てられています。曲のつくりから音楽的なイメージを広げ、それを伝えるための技術を勉強できていることを実感出来ており、音楽の見える方がどんどん変化していくのが面白くてたまりません！

コロナ禍によって、以前のように国を行き来することが難しくはなっていました。お店が、それでも学べることは数え切れないほどあります。素晴らしい先生や大切な仲間、そして大好き

な音楽とヴィオラがいつも側にいてくれる環境に心から感謝しつつ、日々努力を積み重ねていきたいです。

「コロナ禍での留学生活」



（第二のロックダウン直前の、ウィーン・ベルヴェデーレ宮殿前にて）

（20年度助成・ヴァイオリン）
荒井 優利奈
（留学先・ウィーン国立音楽大学）

ウィーンでの留学生活も4年目を迎えました。新しい型コロナウイルスの感染拡大により、私が生活しているウィーンでも3月中旬頃から1日に日に情勢が変わり、スーパーと薬局以外のお店は全て閉まり、国境も封鎖、大学も休校になるなど予測もつかない非常事態になってしまいました。そ

んな中でも大学の授業はすぐにオンライン授業に切り替わり、全ての学びが止まってしまった訳ではありませんでした。準備していたコンクールも延期や中止に、また予定していたコンサートも中止になったりと、当初は何に向けて頑張っていたらいいのかわからなくなり、しばらくは先が見えない不安とともに悶々とした気持ちで過ごしておりました。

自粛中はすぐには前向きな気持ちにはなれませんでした。自分が向き合う時間が増えたことで、新しい作品をじっくりと勉強する時間が増え、今までゆっくりと訪れることができなかったウィーンで活躍していた音楽家達の足跡を巡ったり、美術館や博物館にも時間をかけて行くこともでき、今自分がやることをやれる形で頑張ろうという気持ちになり、もしかしたらコロナ前よりも充実した時間を過ごすことができたのかもしれない。

今年はコロナの影響でビザの申請もすべてメールで郵送でしか手続きできず、大学の事務手続きも全て事前予約制になってしまい、

手続き一つにしても時間がかかり大変ですが、新しい生活様式にも慣れていくしありません。

そんな中でも9月にはコンサートやバレエ、オペラも観に行くことができました。満席とは程遠い観客数でしたが、地元の人をはじめコンサートやオペラを楽しむに来場する人々を見て、ウィーンはやはり音楽が生活に根付いていると改めて実感しましたし、久しぶりの生の音楽の素晴らしさに感動し涙が溢れました。

「生」の音楽でこそ『オンライン』では味わえない感動があり、こんな状況の時だからこそ心の支えになり、癒しを与える力がある音楽の必要性や価値を改めて感じました。

今やコロナで世界中が厳しい状況下にあり、しばらくは目に見えないウィルスとの未曾有の長期戦になりそうです。ご支援いただきありがとうございます。感謝の気持ちを忘れることなくこれからも自分ができることを精一杯頑張りたいです。

日本音楽コンクール

明治安田賞受賞者（作曲部門）

日本音楽コンクールの作曲部門は、作曲家の方々がデビューの足掛かりとしてきた重要な部門ですが、当財団は若手作曲家の励みとなるよう同部門の最優秀者に対し「明治安田賞」（賞金50万円）を寄託し、次の方々を受賞されています。

91年度（第60回）	山岡 智
92年度（第61回）	藤満 健
93年度（第62回）	原田 敬子
94年度（第63回）	伊佐治 直
95年度（第64回）	望月 京
96年度（第65回）	若林 千春
97年度（第66回）	なかにし あかね
98年度（第67回）	大場 陽子
99年度（第68回）	三浦 則子
00年度（第69回）	小野 貴史
01年度（第70回）	名倉 明子
02年度（第71回）	朴 銀荷
03年度（第72回）	中村 寛
04年度（第73回）	宮澤 一人
05年度（第74回）	横島 昌浩
06年度（第75回）	篠田 昌伸
07年度（第76回）	稲森 季子
08年度（第77回）	江原 安太
09年度（第78回）	中辻 小修
10年度（第79回）	三宅 悠太
11年度（第80回）	魚路 恭子
12年度（第81回）	平川 加恵
13年度（第82回）	網守 奨平
14年度（第83回）	杉本 友樹
15年度（第84回）	向井 響
16年度（第85回）	東 俊介
17年度（第86回）	白岩 優拓
18年度（第87回）	久保 哲朗
19年度（第88回）	松本 結渚
20年度（第89回）	波立 裕矢



助成対象者の皆さんから寄せられたお便りを助成年度、専攻部門の順に掲載しました。

1991年度助成

鈴木 優子

(パーカッション・ハンブルク在)
 昨年は、初心に戻っているかと考える年となりました。ドイツ劇場ハンブルクの新作演劇に関わり、5月～9月まで主にドイツに滞在し、リハーサル、初演を行いました。定期的に検査を受けながら、出演者やスタッフから一人でも陽性者が出れば、すべて中止になるという状況でプレッシャーを感じました。同時にこのような時こそ、普段以上にのびのびと表現し、芸術のすばらしさを舞台で伝えたいと強く思いました。幸い、無事に初演公演を行うことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

1992年度助成

志茂 征彦

(ピアノ)

昨年は、思いもよらず日本ドイツリート協会の役員に就いた。この協会との関わりは、東日本大震災の年に行われたチャリティコンサートに始まる。音楽を通じて何か出来ることはないものかと自問する中での出会いだった。そして2020年、再び想像し難い困難な世の中が訪れ、芸術の果たす役割を考える毎日だった。予定されていた催しは中止や延期に追い込まれたが、昨年の秋に行われた会場とオンラインによる久しぶりのリート研究会では、熱意と喜びに満ちた時間を参加者と分かち合った。それは、文化がどのように人の精神面に関わるのかを深く感じた瞬間だった。

田中 晶子

(ヴァイオリン)

コロナで全てのコンサートは中止又は延期。絶望したあの期間の後、初めて開催されたりサイトルは、本当に、音ひとつひとつが愛おしく、感情がこの上なく溢れて来るようだった。音楽の力を再確認し、今まで当たり前だった演奏する事の意味に心から感動

した。これもこの経験のおかげと思ひ、全てに感謝している。

梅津 千恵子

(パーカッション)

「みえないウイルスへの恐怖心が日常になり、閉塞的な生活を強いられる人々の心身を助けたい。」その一心で自分が出れること、「人には文化・音楽が必要だ」ということを音で届けたい。コンサート会場での演奏・集客が困難になったことに準じて、長年抱いていた夢の一つ、編成が大きく曲数も多い「ヴィヴァルディ調和の靈感」のマリンバアンサンブルCDを作成しました。夢の実現に心より感謝しつつ、これからも音で社会に還元していきたいと思ひます。

1993年度助成

九頭見 香里奈

(ヴァイオリン・アウグスブルク在)

2020年は世界中がコロナウイルスとの戦いの年になつてしまいましたが、ドイツでの感染者数は日本とは比較にならないくらい酷い状態です。特に9月以降、信じられないような勢いで感染者が増え続け、今の段階で11月1カ月はコンサートが全て禁止になり、私達音楽家にとって

も辛い年となりました。私の所属先のオーケストラはまだ通常通りの給与ですが、減給になったオーケストラも沢山ありますし、フリーの音楽家達は収入を絶たれ苦しんでいます。それでも自分達に出来る事をしたいと、5月からは毎月、同僚達と様々な老人ホームを訪問し、マスク着用で距離を保った状態で、話を加えながら30分ほど演奏をしています。とても喜んで下さる方が多く、色んな感想を直接耳にすることが出来、演奏する側にとっても楽しいひと時となつているので、コンサートが開けるようになっても福祉活動を多く続ける事になりそうです。少しでも早く、また安心して生活できるようになりますように。

齋藤 千尋

(チェロ)

小林 幸子

(ヴァイオリン)

(注：両氏はロータス・カルテットとして演奏活動中・シュツットガルト在)

ガルト在

2020年はコロナウイルスによって誰にとっても経験のなかったことが起こった年になりました。私達も様々な演奏会がキャンセルされました。中でもプラハの春でのコンサートや7月の予定してい

た日本での演奏会がキャンセルとなつたり、10月にはドイツ人のメンバーが日本に入国できず、カルテットではなく、トリオとして日本で演奏ツアーをさせていただく事になりました。残念に思う事もありました。急な変更でしたが、行く先々で演奏会を歓迎して下さり演奏会のためにお心を尽くしてくださる方々や、聴きに來てくださった方々のご期待に触れていつも以上に感謝する事が多く、また演奏会の意味を再確認した心に残る大切な経験をさせていただきま

1994年度助成

樋口 あゆ子

(ピアノ)

コロナ禍により、昨年の春から秋までは、世界中のコンサートホールからコンサートが消えました。1年中ベートヴェン生誕250周年記念イヤーで音楽が鳴り響く年でしたが、音楽が流れていたのは、テレビやネット配信等のデジタルでの場だけでした。私のコンサート活動も昨年3月の東京杉並公会堂でのコンサート以来、年内は消滅致しました。音楽活動の場は、複数のコンクールやオーディションのオンライン審査と、自分の

新型コロナウイルスの感染

2020年は苦い思いが多い年でした。コロナ禍で活動が大きく制限される中、ZoomやFaceTimeなどの活用、YouTubeでの動画配信など、初めてのことでしたが大慌てで行いました。SNS (twitter) にもデビューしました。今後予測される受験生やコンサート観客の減少を見据えて、積極的な情報発信を行うつもりです。N響は3月から7月までほぼ4カ月間演奏活動を休止しました。この間自宅に閉じこもり（人生で初めて）時間

音楽家は元々、籠るのは得意な方だと思っていました。が、レッスンにしても演奏会にしても、「ひと」との関係性あつての、表現の場があつての自己鍛錬なのだと、しみじみ感じた年でした。オンラインレッスン、収録、配信など、自身は否定的だった手段にも、色々トライしました。ヨーロッパに暮らして勉強させて頂いたからこそ、欧州の生活様式や感染拡大の状況は理解できます。今、欧米で学んでいる、或いは留学の計画をしている方達には、難しい時間が流れていると思います。音

楽は、このような時こそ必要とされているにも関わらず、ある程度の修得までにも、かなりの時間を要する芸術です。思いもしなかった大変な事態の中でもメセナとして私達の活動の支援をして下さる財団の存在は、本当に心強く、ありがたいです。これから素晴らしい学びの場が広がっていくであろう若者が希望を持つて進めるように、微力ながら、私もアシストしていかなくてもはと思っています。日々、活動させて頂けることに感謝しながら、粛々と過ごすこの頃です。

らしいなあと思います。今年のことは分かりませんが、頑張って良い1年にしたいと思っています。

石橋 幸子

(ヴァイオリン・チューリッヒ在)

世界中がコロナ禍で大変な状況の中、これから留学を考えていたらつしやる方々は、さぞ不安な日々を送られていると思います。この状況が1日も早く収束へ向かい、以前のような平穏な日々が取り戻せるよう、心から願っております。こちらスイスでは春にロックダウンがおき、一時的に経済がストップしたものの、7月からはオーケストラも再開して回復傾向にありました。しかし10月末に再び感染が悪化して、現在もコンサートができない状況に陥っています。私を取り組んでいる弦楽三重奏「トリオ・オレアーデ」のコンサートも全てキャンセルになってしまいました。この様な状況の中ですが、スイスのハービスロイティンガー音楽財団からお借りしているストラディヴァリウス「キング・ジョージ」を使用して、貴志康一氏(1909〜1937)の作品を録音してみようと模索中です。この楽器を演奏させていただき今年で4年目になりました。

すが、残念ながら返却の時期が迫っていて今年が最後の年でもあります。このストラディバリウス「キング・ジョージ」は今から約100年前にヴァイオリニスト&指揮者としてヨーロッパを中心に活躍された貴志康一氏が使用していた楽器です。そこで是非貴志康一氏の作品を、彼が使用していたこの楽器を通して録音しておきたいと考えております。来年この場をお借りして皆様に良いご報告ができます様に取り組みしたいと思います。また、昨年ヨーロッパで発売された「トリオ・オレアーデ」の「モーツァルト・ディベリテイメント」のCDが日本でも発売となりました。お手すきの折にでもお聴きいただけますと大変うれしく思います。それでは今年も1年、どうぞよろしくお願いいたします。



1996年度助成

磯 絵里子

(ヴァイオリン)

昨年は新型コロナウイルス感染症が世界へ広がり、現在も予断を許さない状況が続いております。皆さま同様私も2月末から8月末までのコンサートは全て中止か、2021年に延期となりました。再開後の初公演は9月の新渇りゅーとびあ。コンサートホールでの前日リハーサルでは、ホールに満ちる音に得も言われぬ感動を覚えしました。まだ演奏活動もすっかり元通りとはいきませんが、開催されるコンサートひとつひとつを大切にやり進んでいきたい、と気持ち新たに感じています。留学中の皆様も、学校が閉校、レッスンもままならない等と不安なことも多くおありだと思いが、この期間に練習、研究したことは将来の糧となると信じ、前向きに取り組んでください！ <https://erikoiso.jp/>

安藤 裕子

(ヴァイオリン)

私は2020年夏に、いくつかのコンクールで審査をさせていただきました。感染症の流行の中、自分と向き合ってきた、この舞台上上がってきた

であろう数多くの熱演にふれ、彼らの演奏の場を広げていく為にも、我々世代が今の時期、模索しながら音楽活動を続けていかなければと強く感じました。基礎練習に改めて取り組んだり、読書の時間が持てたり、これまででできなかった案件に取り組みんだり、強制的休暇も悪くなかったと感じています。経験に勝る学びはないと信じて、今年もコツコツ歩んでいきたいと思っています。

1997年度助成

泉 良平

(声楽)

新型コロナウイルスの世界的蔓延。当然音楽界も次々と中止が続く中、2020年8月日本オペラ界としては初のコロナ禍からの再出発となった藤原歌劇団オペラ『カルメン』に参加。出演者スタッフ総勢数百人規模の公演、お客様も含めて1人の感染者も出さない舞台となりました。コロナとの戦いはまだ道半ばですが21年2月日本オペラ協会『キジムナー時をかける』、4月藤原歌劇団『ジャンニスキッキ』、5月京都、7月の神戸での新作オペラ等の公演に出演予定。健康に留意し奮闘を続けたいと思います。

山崎 貴子

(ヴァイオリン)

2020年は、平穏な日常の有難さに改めて感謝し、また藝術活動について改めて深く思考する年となりました。オンラインでのレッスンや授業は、便利でもあり不便でもあります。自分が留学していた頃は、まだメールも普及していませんと言います。ましてやビデオ電話など未来の話...と思っていたことを思うと、この文明の利器に偉大さを感じますが、同時に、この状態が続くにつれ、実際にそこに行けること、演奏を生で聴けることへの希求が強くなります。留学中の方、そしてこれから留学を考えている方には、ただただ、なるべくスムーズに、そして充実した活動が出来ることを祈るばかりです。個人的な活動としては、延期したベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会シリーズの中期の作品に、2021年は必ずやと計画しております。

1998年度助成

豊嶋 起久子

(声楽)

2020年2月コロナがまだ東アジア区のウイルスかのような認識だった中、私はセ

ルビア共和国ベオグラード国立歌劇開場100年記念公演に招待を受けて日本からヨーロッパに向い主演致しました。セルビアはかつて明治天皇との書簡による交流があり、100年前の復興開場公演が「蝶々夫人」でしたが、その年日本でも明治神宮が作られたことは、当時の歴史文化における古今意識を多方面から垣間見ることが出来ます。

スペイン風邪終結から100年、オーストリアザルツブルグ音楽祭開催100年、日本とヨーロッパの人々の文明の歩みを100年単位で振り返り未来のそれについて、出来る事としてやるべき事、残すべき事についてより明確に、行動したいと思います。

1999年度助成

田邊 織恵 (声楽)

本当に大変な世の中になってしまいました。大学での授業もリモートや様々な対策、工夫をしながら手探りの状態でやっとここまで来ている感じです。幸い今年からは、新作歌曲のコンサート、公開講座、作曲家の先生の作品のCD録音など新作の演奏会の依頼が入り、やっと歌手としての活動も動き出しています。

また歌える喜びを感じると同時に、どんな時も自分の歌と向き合える状態を忘れないでいようと改めて考えさせられた1年でした。

大谷 玲子 (ヴァイオリン)

2020年9月から10月初めにかけてポーランド・ワルシャワで行われた「第6回タデウシ・ヴロンスキ国際ヴァイオリンソロコンクール」の審査に行つてまいりました。コロナ禍にもかかわらず、多くの非常に高いレベルの参加者が各地から集まり熱演を繰り広げ、非常に聴きごたえのあるコンクールとなりました。旧知や初対面の審査員の先生方とも親交を深め、楽しい日々でした。ポーランドはマスクや消毒、検温など、感染予防対策はしっかりしていたように見えました。帰国後は14日間自宅待機。早く世界的にコロナが収まり、音楽活動が元通りになることを願っております。

2000年度助成

松原 広美 (声楽)

音楽の火を絶やさない...という信念のもと、コロナ禍を乗りきっております。私の藤

原歌劇団デビューになる予定だった『フィガロの結婚』が、昨年6月から今年1月9日に延期になったのをはじめ、ほとんどの本番は延期または中止になりました。幸い拙宅にスタジオを構えており、5月から毎月オンライン・コンサートを開催し、演奏の技術を維持してきました。Youtubeに動画を載せておりますので、是非ご覧ください。指導する場でも、個人の生徒さんや合唱団と互いに工夫しながら、ずっとレッスンを続けてきております。フィガロの後

は、2月21日日本オペラ協会『キジムナー時を翔ける』、4月24日藤原歌劇団『ジャンニ・スキッキ』と大きな公演が続きます。コロナのために、今までで一番「密」なスケジュールとなっております。

上野 真理 (ヴァイオリン)

世の中が変わってしまったような中、岡山県勝央町のおうちdeクラシック他、収録や無観客実施という形でも、コンサートに関わらせて頂きました。今年は川越市でのニューイヤコンサートをはじめ、茅ヶ崎市、岐阜県山県市へのアウトリーチ事業等に参加させて頂きます。主催者の皆さまの大変さは本当に察す

るに余り有りますが、止まらずに歩を進めていきたいと思っております。貴財団のサポートに心から感謝しております。

神谷 (ジラール) 未穂 (ヴァイオリン)

コロナ禍で、所属する仙台フィル、千葉響、横浜シンフォニエッタ、宮城学院女子大等のコンサート&イベントを合わせますと、中止と延期が100超えとなつてしまいました。そんな中、右手小指の腱も切つてしまい(ツァー中、スウィッチケースを持ち上げた時に!)、2020年はまさに受難の年となつてしまいました。2021年はベーターヴェンの名言、「苦悩を突き抜けて、歓喜にいたれ」となりたいたいです。留学生はじめ、皆様、ご自愛下さいませ。

シュレイファー(遠藤)弓子 (ハープ・グラス在)

今年はコロナ禍にありここアメリカでも全く違ったシーズンを迎えております。演奏会は悉くキャンセルされ、シーズン全てのコンサートを中止したオーケストラも多くあります。またライブのコンサートへの代わりの、ネット配信型のコンサートもだいぶ増

えて来しました。私自身は幸いにも感染者数が割と抑えられている所に住んでおりますが、やっとアメリカでもマスク着用が定着して来しました。私自身はまだ、全てをオンラインで授業をしたりレッスンをしています。昨年9月の新学期に合わせて、多くの学校での全面的な対面授業が始まりました。これを機に音楽の持つ力を考え直し、新しい時代に音楽がどのように貢献することが出来るのか、色々考えさせられる時間を過ごしております。

2001年度助成

三上 亮 (ヴァイオリン)

昨年は私も数え切れない数の演奏会がキャンセルとなり自分と向き合う時間が続き、改めて人とのご縁や出会いは日々の練習と同じ様に貴重な財産なのだと感じました。そんな中、ダイビングを始めました。普段の生活とは水面で隔てられた神秘的な水中世界で自分の内面とも向き合える感覚は癖になりそうです。今年はまた新たに多くのお客様と出会えますよう演奏にも海の美しさをのせてお届けします。

大石 将紀

(サクソフォン)

ここ数年サクソフォンと邦楽器のための作品を委嘱初演するプロジェクトに取り組んでいますが、3月19日にサクソフォンと笙のための作品コンサートを行います。細川俊夫さんとチリ人の若手作曲家に作品を委嘱、宮田まゆみさんと共に発表します。サクソフォンのための新しい作品を発信するプロジェクトを今後も行っていく予定です。

2003年度助成

市原 愛

(声楽)

昨年は新型コロナウイルスの拡大で、合唱付作品、海外招聘オーケストラとの公演など：延期の延期、ついには中止、歌ものから器楽へ公演内容の変更：とにかく痛みを伴う日々でした。それでも、歌手である私をとてども自慢に思ってくれている娘の為に、前を向き、歌と共に生きる覚悟を新たにしております。

2004年度助成

富平 安希子

(声楽)

昨年はコロナにより世界が突然日常を奪われ、私たち演

奏家も演奏の場を失いました。決まっていた仕事も軒並みキャンセルになり戸惑う日々でしたが、それはじつくり自分に向き合える時間でもありました。昨年9月には光栄なことにコロナ後初の東京二期会のプロダクション『フィデリオ』に出演させていただき久々に劇場に響く生の音楽、カーテンコールで舞台から見えたお客様のお顔、あのような状況の中、一人も欠けることなく終演できたことは、忘れられない思い出になりました。いまだ油断できる状況ではないものの、大変嬉しいことに今年もいくつかの出演の機会を頂いております。6月には日生劇場『ラ・ボエーム』にムゼッタ役で、8月には昨年以上演ずるはずでした『ルル』の延期公演に表題役で出演予定です。

2005年度助成

臼木 あい

(声楽)

エッセンシャルワーカーではない私達音楽家にとって、2020年は自分の存在意義すら見失いかげそうになった1年でした。4月には大切な友人をコロナによって失い、私自身も暫くは音楽に気持ちに戻りませんでした。少しづつ

つ新しい日常が始まり、音楽界にも活気が戻りつつあります。自粛以降半年以上ぶりに出演させて頂いた演奏会では、観客席が半分になっていたにも関わらず満席のような温かい拍手を頂き、お客様が音楽を待ち望んでいらっしやったことに胸が熱くなる思いでした。今年は2月に新国立劇場の『フィガロの結婚』でスザンナを歌わせて頂きました。この原稿を書いている今、果たしてどのような形での上演になるのか見えない部分もありますが、音楽をオペラを待っていらっしやる沢山の方々に喜んで頂けるよう、最善を尽くしたいと思っています。

佐野 隆哉

(ピアノ)

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、それまでの生活のみならず音楽活動も180度変わってしまいました。少しずつ平穏を取り戻しつつありますが、今出来ることをコツコツと積み重ねていくしかありません。そんな中ですが、昨年11月終わってから山田耕作のピアノ作品の全曲レコーディングに挑戦中です。海外に出た経験があるからこそ、日本の良さを再発見していけたらと思います。

遠藤 真理

(チェロ)

2020年は混乱の中、手探りしながら過ぎてしまった様に感じます。8年間メインMCをさせた頂いたNHK-FMきらクラ！が終了しました。ゲストとしてたくさんのお客様のアーティストに出演していただき、この場を借りてお礼申し上げます。楽しい時間をありがとうございました。コロナ禍で仲間からのバックアップがあり、YouTubeの配信を始めました。週に1度更新され、主に読響のメンバーを紹介する番組です。ゲストにソリストとして読響に来てくれた方々も出てもらっています。「オケトーク！」という番組です。でチェックしていただけだと嬉しいですが、読響は7月から本格的に再開され、年末には第九まで演奏できた事に多くの方々の尽力を感じます。引き続き油断する事無く、仲間と音楽ができる喜びを届けていければと思います。

横坂 源

(チェロ)

様々な問題を抱える中コンサート運営し、ご尽力下さっている皆様に心より感謝申し上げます。2月21日にベートーヴェンのトリプルコ

ンチエルトを日本センチュリーオーケストラと、3月27日にはチェロリサイタルを大阪シンフォニーホールで演奏させて頂く予定です。また新たな出会いを通して室内楽も多く参加させて頂けることに喜びを感じております。

2006年度助成

江水 妙子

(声楽)

先日初めて無観客コンサートをライブ配信しました。普段遠方で来れない方や、クラシックのコンサートに敬遠されている方々にも気軽に観て頂けたことは良い発見でした。有観客のコンサートとオペラも少しずつ戻ってきていますので、しっかりとした新型コロナウイルス感染予防対策のもと、音楽の素晴らしさをお伝えできたらと思います。

佐藤 卓史

(ピアノ)

コロナウイルス感染拡大に伴い演奏活動は中止、こんなに長くステージから離れたのはデビュー以来初めてのことでしたが、その間に従前の懸案や新しいレパートリーに取り組むことができ、これもまた貴重な時間だったように思

います。秋から少しずつコンサートも再開、恒例のシュベルトの全曲シリーズも第13回まで終えて、折り返し地点が見えてきました。

www.takashisato.jp

鈴木 真貴子

(ピアノ)

様々に変化のあったこの1年。留学先のパリの様子にも心を痛めつつ、今自分にできることを丁寧に行おうと過ごした1年でした。そして、ライブの音楽の尊さを改めて痛感した1年でもありました。芸術の光を次の世代にもつなげられるよう、試行錯誤しながら本年も音楽活動に取り組みたいと思います。新しい1年が希望に満ちた1年となることを願いつつ…



2007年度助成

中村 恵理

(声楽・ミューンヘン在)

2020年はまさに受難の年となりました。飛沫感染と関わりの深い声楽は特に大打撃で、私も予定していた公演の殆どが中止となり、アジア人に限らず、世界各国から夢と大志を持って渡欧した同僚や友人達が祖国へ帰国する事態となつています。特に欧米での演奏活動はしばらくは苦しい状況ですが、クラシック音楽が今の不安な社会への癒しとなればと願っています。先日、バイエルン国立歌劇場が市内のどこにあるかも覚束ないドイツ人と話した時、オペラに興味のない彼女から「人々の心は飢えている。あなたたちは必ず必要とされる。」と言われました。興味はなくてもクラシック音楽に価値を置き、尊重している人々がいることに安堵そして感謝し、必要とされた時に良い音楽をお届けできるよう、今は修練に努めたいと思います。

上江 隼人

(声楽)

2020年は10月29日に四谷区民ホールでリサイタルを開くことになりました。コロ

ナ感染拡大防止の影響で座席を約半分にし、収録スタッフを入れて、配信や後日DVDにして配布する形で実施しました。コロナが少しずつ収束する事を願います。21年には日本オペラ振興会の「ボエーム」「ジャンニ・スキッキ」等に出演予定です。

2008年度助成

クリステン・木実・ウィットマー

(声楽・オランダ在)

COVID-19の影響で世界中が揺れる中、文化界への打撃も悲惨なものです。私も3月始め頃より演奏の仕事は1年先まで全てキャンセルされ、それ以来は、人数編成を小さくした新しい企画などで、少しずつ演奏活動が続けています。こんな状況があつたのくらい続くのだろうと不安になる事は多々ありますが、日々の食事にすら困窮する人々が世界の至る所で増えている実態を聞かされる度に、先進国で暮らす私たちの状況はまだまだ恵まれていたのだと気づかされます。安全規制に沿うための工夫はもちろんのこと、来場者の数が100人、30人と制限されれば、できる限り多くのお客様に来ていただけるよう1日に2公演や3公演することも今

では普通になりました。先日にも規制により止むを得ず空っぽのコンサートへボウからバツハ「口短調ミサ曲」のコンサートをライブストリームしました。公演が前日や当日にキャンセルされてしまう事もしばしばあります。「来週のプロジェクトも、明日の本番も決行されるだろうか」とドキドキしながらも仲間と共に作り上げ、とにかく「今」出来ることを考え企画していく。沢山の勇気と忍耐と様々な状況に対応する柔軟な生き方が求められているように思います。家族や友人始め「人との触れ合い」が断たれていく今こそ、音楽の演奏を通して人々と繋がり、喜びや慰め、癒しや感動を共有できる事は本当に大事だと思います。皆さんどうぞ平安に、健やかに過ごして下さい！

塚越 慎子

(マリンバ)

2020年はすべての人にとって大変困難な年だったのではないかと存じます。私も人前で演奏する機会を多く失いました。その残念な気持ちと同時に、楽しく平和に過ごし、コンサート活動ができるありがたさ、嬉しさを改めて強く感じる機会ともなりました。海外留学をし、海外の

2009年度助成

重島 清香

(声楽・ワイマル在)

毎年、夏は一時帰国していましたが、昨年はコロナの影響で帰国できませんでした。ワイマルで夏を過ごし、譜読みをして余裕を持つて新しいシーズンを迎えられると思つたのも束の間、まだ収まらないコロナの為に、大幅な演目の変更、先のことは未だ予想できません。幸い、現在は共演者との1.5メートルの間隔をとりながら、演技稽古も再開しており、本来800人収容できる劇場を170席に減少した状態で公演を開催し

ております。今のこの環境でできることをやっていきながら、常に臨機応変に対応していくことが、私の今の課題であります。今年は「カルメン」を歌う予定もあり、日本から両親が見に来るので、とても楽しみにしています。

金子 平

(クラリネット)

昨年は演奏会がでない期間が長かったこともあり、これまで以上に一つ一つの演奏会がとても大事なものとなりました。改めて演奏ができる幸せを感じました。また、練習時間が長く確保できたおかげで、練習方法や本番に向けての準備など、新しい発見もありました。今後も、練習、室内楽、オーケストラとそれぞれを大切にじっくり取り組んでいきたいと思っています。

2010年度助成

酒井 有彩

(ピアノ)

舞台上響く音に想いを馳せた昨年。当たり前の日常が日常でなくなり、従来の価値観の変化、また様々な角度からの多様な意見に触れ、音楽家としてどのような活動をしていくべきなのか、考えさせられた1年でした。そして改め

て、舞台上に立たせていただく喜びを心から感じました。今年の弾き初めは大阪交響楽団の皆さまとコンチェルト、ひとつひとつの本番と大切に向き合いながら、今年も精進していききたいと思っています。

小林 美樹

(ヴァイオリン)

昨年はコロナで演奏会予定がなくなった間に、歌曲と舞曲がテーマの4枚目のCD制作に打ち込み、これまでお世話になった多くの方々のご協力を得て9月に発売されました。10月に入り演奏会が再開され急に忙しくなりましたがお客様の前で演奏する幸せを感じ、心新たに更に精進したいと思っています。

2011年度助成

坂本 彩

(ピアノ)

帰国以来、東京と関西を行き来する生活がまるで夢だったかのように、3月からは半年間、地元・明石に籠っての生活でした。その間新たに学んだ曲をレパートリーに加え、10月には神戸でオール・ブラームスプログラムによるリサイタルを行いました！また新春には、地元文化財団のサポートのもと「明石クラ

シック」室内楽公演を企画しています。変わりゆく時代に合わせ、ウェブ配信を盛り込んだの公演となります。今からとても楽しみです！

永井 基慎

(ピアノ・フランス)

今年度はパリ音楽院修士ピアノ伴奏科を休学し、歌曲伴奏科のみ専攻しております。クラスで学ぶことは多く大変ですが、同時に歌曲伴奏科で得たことを室内楽やソロにおいて還元できることを日々興味深く、幸せに感じております。また光栄なことに今年から来年にかけてヴァイオリン、打楽器、サクソとのデュオ等でのCD録音を何枚か予定しております。今後も様々な分野で精力的に活動できるような日々精進して参ります。

正戸 里佳

(ヴァイオリン・バリ)

最初にパリに渡ってから10年以上が経ちました。現地ではソロや室内楽の勉強と演奏を通して、様々な刺激を受けてきました。今は日本での活動も本格化させ、各地でコンサートやコンチェルトに取り組んでいます。18年にフレンチ・プログラムのCD「パリのヴァイオリン・ソナタ集」をリリース。また近年はベ

トーヴェンのヴァイオリンソナタ全曲を完遂し、ベートーヴェンの新たな人間味あふれる素顔に触れることができました。昨年はパリに中々戻れない日々が続きましたが、季節毎にヨーロッパを想い、街の空気を思い起こしていました。新たな年が素晴らしいものになることを願っています！

2012年度助成

増田 桃香

(ピアノ)

世界がこのような状況になって以来、これまでどれほど恵まれていたのかを改めて実感するようになりました。様々な媒体を用いた演奏の場が急速に増えましたが、生演奏でしか味わうことのできない唯一無二の空間を、多くの人と気兼ねなく分かち合える日が再び来ることを願っています。日々音楽と向き合っていきたいと思っています。

松本 紘佳

(ヴァイオリン)

この原稿を書いている現在、東京都での感染者数が1日500人を超え、まだまだ油断ができない状況であること、また、海外では厳しいロックダウンが行われている

こと、医療従事者の方々が大変な思いをされていることにとっても心が痛みます。一刻も早くに感染拡大が収束することを願っております。私は2020年初夏より感染症対策を最大限に講じた上で開催されている演奏会に出演しております。2020年10月より横浜市青葉区のフィリアホールを拠点に開催されている「パリアフリーコンサート」シリーズに出演し、クラシックギタリストの岡本拓也さん、ピアノリストの梯剛之さん、チェリストの水野優也さんと共演いたしました。2021年1月には大江薫さんとのデュオや日本人作曲家によるヴァイオリンソロ曲の初演を控えています。昨年より大学では生物学系の研究室に所属し、動物実験や解剖、遺伝子解析を行うと共にヴァイオリン生演奏を介入した実験も昨年から行っています。これからも真摯に誠実に歩み、自分の音楽表現を突き詰めてまいります。

上村 文乃

(チェロ)

ドイツ・スイスの7年間の留学を経て、完全帰国となりました。21年は鈴木優人さん指揮京響さんの定期演奏会にお邪魔します。留学で得たモ

ダンチエロの雄大な響き、古
楽から学んだ鮮やかでみずみ
ずしい響き、正反対のものが
私のなかに混在しています。
お客さまとの一期一会を大切
に、その作品の魅力をみなさ
まとご一緒に感じていきたい
です。

2013年度助成

谷垣 千沙

(声楽・ドイツ在)

ドイツでも日本の音楽家が
そうであるように、コロナの
影響は大きいものでした。突
然出来た大きな時間に戸惑い
ましたが、最初で最後の日本
音楽コンクールを受けること
を決めました。長丁場の末、沢
山の人の支えられ、2位と聴
衆賞を頂き終えることができ
ホッ。ヨーロッパは先行きが
見えず不安ですが、ただ歌え
る事に感謝し、来たる日を待
ちます！

加藤 のぞみ

(声楽・バレンシア在)

2020年、世の中は本当
に大変なことになってしま
いましたね。ヨーロッパでのコ
ンクールやオーディションは
軒並みキャンセル、各国の多
くの劇場もロックダウンに
よって閉鎖されています。私
も2020年11月にスペイン

のオビエド歌劇場で蝶々夫人
のスズキにて出演予定でした
が、公演初日の5日前にオビ
エドがロックダウンされるこ
とが決まり、公演することな
くバレンシアへ戻ってきました。
何度心も折れそうにな
りながらも、歯を食いしばっ
て、目を見開き、一歩でも半
歩でも前に進もうとしていま
す。留学予定だった方や留学
中の方は自分の将来やいつま
で続くかわからないこの状況
に不安な日々を過ごしている
のではないのでしょうか。どう
ぞ、焦ることなく、今自分の
できることを行っていれば
きつと、チャンスの時〴〵は
やってきます。乗り越えま
しょう！

佐藤 彦大

(ピアノ)

コロナで活動が制限され、
演奏動画のアップロード、動
画審査、オンラインレッスン
と、オンラインづくしでした。
夏頃に漸く演奏会ができた
時、つくづく音楽は生演奏に
限ると痛感したのが記憶に新
しいです。新しく勉強したレ
パートリーの中ではチェロと
の作品やバッハのゴルトベル
ク変奏曲が自分の中で大きな
出来事でした。

藤井 淳子

(チェロ・ベルリン在)

去年(2020年)の1月
よりケルン放送交響楽団のア
カデミー生として1年研修を
積むこととなり、ベルリンで
の仕事とスイス・バーゼルで
の学業を両立させながら忙し
い日々を送るはずでしたが、
3月中旬からコロナの影響
で、その後に予定されていた
コンサートは年末まで全て
キャンセルとなってしまいま
した。またバーゼルの学校の
卒業試験も5月から8月下旬
に延期となり、コロナ禍でも
無事卒業することができまし
たが、第1回目のロックダウ
ン後の仕事はほぼ無で、あっ
てもスタジオで録音のみの厳
しい状態が続いています。こ
れからまた少しでも状況が良
くなって、再びステージに立
てることを心待ちにしていま
す。

2014年度助成

熊田アルベルト彩乃

(声楽・ウィーン在)

このご報告を書いている現
在オーストリアは2度目の
ロックダウンに入っており、
コンサートなど全てのイベン
トがキャンセルされています。
オーストリアの人々はマ
スクの着用や国の対策を比較

的まじめに実行しています
が、ヨーロッパの中でも国に
よってウイルスに対する取り
組み方に大きな違いが出たこ
とを興味深く見ていました。
また心置きなく音楽ができる
日が1日も早く戻ることを
願っています。

宮里 直樹

(声楽)

昨年は沢山のコンサートが
キャンセルとなり、未曾有の
事態になりましたが、個人的
に一つだけ良い事がありまし
た。それは父との最後の共演
です。父はN響のVn奏者で
したが、第九の公演は昨年で
最後となりました。本来外国
人歌手が招聘される予定でし
たが、コロナによって来れな
くなり、ソリストとしてお声
掛け頂きました。コロナに感
謝したい気持ちにはなりませ
んが、最後に親孝行が出来ま
した。

浦山 瑠衣

(ピアノ・南カリフォルニア在)

多文化を音楽で繋げたい想
いを形にした自身初のCD
“Booming” (世界中の民謡を
基に全曲オリジナル)をリ
リースできたのが2020年
のハイライトでしたが、どの
ホールも学校も2021年夏
シーズンまで閉鎖が決定して

いるアメリカ。インターネッ
トをいかに駆使できるかが成
功への鍵の様な時代で今を精
一杯生きております。

中川 日出鷹

(ファゴット)

先日、久しぶりのホールで
の公演がありました。楽屋の
横に掛けてある絵を観て妙に
感動しました。僕は長い間、
貯蓄を崩す生活を強いられて
いました。経済面のみでなく、
リモートでの間合いのわから
ない会話、空気感の削がれた
演奏、写真で観る絵画。きつ
と本来はこうであろうと過去
の経験の貯蓄から補いながら
ものの認識をしていたように
思います。しかし、本物はもっ
と理不尽で突き抜けるような
感覚をもたらすのだと生の価
値を再認識した半年間となり
ました。

2015年度助成

中島 桃子

(声楽・ウィーン在)

貴財団にご支援をいただき、
私のウィーン生活も早や5年が
経ちました。現在私はウィーン国
立音大のHistorische Aufführun-
gspraxis 科に籍を置き、バ
ロックからウィーン古典派ま
での音楽を中心に研究・演奏
活動を行っています。メルク

バロック音楽祭の演奏会では
Concentus Musicus Wienと共に
演奏させていただき、この時代の
音楽を中心に更に音楽活動を
を広げていきたいと思ってい
たところに、コロナウイルス
の世界的大流行。この世界的
未曾有の困難の中で一体自分
には何ができるのか、という
ことを自問する日々を過ごし
ましたが、やはり私は音楽が
好きで、音楽で生きて行きた
いという思いを新たにできた
ことは、私にとってはコロナ
禍で得られた大きなプラスな
出来事だったように思いま
す。音楽にできること、私が
音楽で社会に貢献できること
を模索しながら、これからも
音楽と真摯に向き合ってい
たいです。

篠原 悠那
(ヴァイオリン)

2020年は思いもよらな
いコロナウイルスの影響で演
奏会が次々と中止や延期にな
り日常が一変してしまいまし
たが、2021年はカルテッ
トアマールで王子ホール、
白寿ホールのシリーズや
ニューヨーク、ワシントンで
のデビューリサイタルを予定
しています。1日も早い収束
を願うのと同時に自分には音
楽で何が出来るのかを探る毎
日です。

長尾 春花
(ヴァイオリン・ハンガリー在)

大規模なロックダウンを経
て、音楽活動のペースや形は
激変しました。数え切れない
予定変更と不安定な先行きの
中、限られた座席を求める聴
衆がいてくださるのは本当に
有難く、一つ一つの演奏会に
思いを注いでいます。20
20年夏はヨーロッパ内を往
来しましたが、今は閉ざさ
れ、来夏の日本での演奏会を
心の希望に思っています。

麻生 雄基
(チューバ・ドイツ在)

2019年より勤めた
ウィーンのトーンキュンスト
ラー管弦楽団での契約を終え
て、ドルトムントに戻ってき
ました。この1年間は本当に
充実しており、とても素晴ら
しい楽団員はもちろん、皆の
信頼を一身に集めている音楽
監督の佐渡裕さんにも大変お
世話になりました。加えて夢
であったウィーン国立歌劇場
の公演でも演奏でき、忘れら
れない年となりました。現在
世界中どこを見ても大変な状
況ですが、お世話になった皆
様への感謝の気持ちを忘れず
に精進して参ります。皆さま
のご健康を心よりお祈りして
います。

2016年度助成

上野 明子
(ヴァイオリン・ケルン在)

ケルン音大の国家演奏家資
格課程に在籍しながら昨年1
月からデュッセルドルフ交響
楽団のアカデミー生として研
修を始めました。毎回素敵な
ホールで弾ける幸せを噛み締
めながら学んでいます。パン
デミック以降コンチエルトを
含む楽しみにしていた演奏会
が続々と中止になってしま
いましたが、早くこの状況が終
息することを願っています。

2017年度助成

松原 みなみ
(声楽)

新型コロナウイルス感染拡大第1波
がやってきた頃、お世話に
なっております指揮者の先生
が出演されたFMラジオで私
の演奏を放送し、話題にして
下さいました。演奏会の中止
や延期が続く苦境に立つ若手
演奏家に向けた「花咲く時期
でないならば根を生やせ」と
いう言葉に大変励まされまし
た。最近は少しずつ演奏の場
が増えてまいりました。一つ
一つ大事に大輪の花を咲かせ
ていきたいと思っています！

今田 篤
(ピアノ・ライプツィヒ在)

2020年はコロナ禍の影響
で多くの公演が中止にな
り、自宅にて練習する日々が
続きましたが、幸いにも8月
に浜松にてソロリサイタルを
開催することができホールで
の響きや音楽の素晴らしさを
楽しみました。後半は欧州に
戻り、学生生活最後の時間を
過ごしました。今まで学んだ
ことをさらに生かして今後も
真摯に取り組みたいと思いま
す。

坪井 夏美
(ヴァイオリン)

コロナ禍で大変な1年と
なっていましたでしたが、大変
有難いことに夏頃から少し
づつ演奏の機会をいただけるよ
うになり、音楽家として活動
させていただける喜びを改め
て実感する毎日です。また、昨
年の春に東京フィルでの試用
期間が終わり、正式に第1V
ンフォアシュピラーとなり
ました。これからも音楽家と
して大きく成長できるよう、
日々精進していききたいと思
います。

中島 諒
(サクソフォン・パリ在)

また季節が変わり、フラン
スも底冷えするような寒い時

期になってまいりました。私
は最近パリ市内の南側の方に
お引っ越しをしました。パリ
は東京と比べると小さな面積
の都市ですが、その中でも区
や、その同じ区でも通りに
よって本当に雰囲気違って
くるのです。パリは真ん中に
通るセーヌ川から見ても北側を
右岸、左側を左岸としますが、
今まで左岸のエリアに行く機
会が少なく知らないことが多
かったのですが、左岸に来て、
沢山の発見がありましたし、
より地域に密着したローカル
なお店や商店街などが多く、
国際的なパリの街のまた新し
い顔が見られました。お家の
近くの通りには、八百屋さん
が一つの通りに10件を超える
ほど密集していて、毎日み
みずしい野菜の脇を通るの
で、健康に気を付けようとい
う意識が芽生えました。



2018年度助成

高橋 維

(声楽・ウイーン在)

2020年は世界中が新型コロナウイルスに翻弄され、これからのようにして音楽を届けようかを全ての音楽家が考える1年だったと思います。そのような中でも大変ありがたいことに11月には日生劇場『ルチア』にあるいはある花嫁の悲劇』にルチア役として出演する機会をいただきました。当初上演予定だった『ランメルモールのルチア』を9分に短縮し、徹底した感染予防対策を行いながらの稽古や本番は普段にはない緊張感もありましたが、コロナ禍においての新しい舞台の形を見ることができとても良い経験となりました。本年は『メリー・ウィドウ』ははじめ複数のオペラへの出演が決定しております。この状況が一刻も早く改善することを祈りながら、最大限の対策と演奏家としての努力を続けながら邁進いたします。

小林 吉成

(ヴァイオリン・ベルリン在)

昨年末から演奏会がなんとか開催できるようになり、様々なプロオケにゲストコンマスとして、今年3月には紀尾井ホールでの「明日への扉」リサイタルシリーズに出演させていただきます。この人との距離を取るしかない世の中で、忘れかけている人との繋がりがや温もりを、なんとか音楽を通して思い出せるような、それが今、音楽家にできることなのかなと感じております。

仁田原 祐
(ピアノ・ザルツブルク在)
2020年2月にモーツァルト国際コンクールに入賞した後から、コロナ禍によって、予定していたコンサート等は中止や延期、学生として最後の二度の試験も、2020年6月から9月と11月に変更されました。そんな中、今後は在学していたモーツァルト大学に教員として勤めることとなり、1日も早くこの状況が改善し、日本とヨーロッパを拠点に自らの演奏、教育活動に邁進できることを願っています。

岡本 誠司

(ヴァイオリン・ベルリン在)

11月のロックダウン・ライト下のドイツでは、幸いにも教育機関は機能し続けており、むしろ教授陣も生徒側も演奏会が全て無くなったことにより、充実したレッスン、

マスタークラスが行われています。直近40日間には5人の世界的な音楽家に90分×14回もレッスンを受けられたほど。あとは演奏会が再びいつもの様に行えるようになる日を待ち望むばかりです。

2020年度助成

櫻井 愛子

(声楽・ウイーン在)

ご支援のおかげで渡航できた次の日には時差ボケと戦いながらお葬式でモーツァルトのレクイエムを歌ったり、新型コロナウイルスに感染した歌手の代わりにミサでソリストとして歌ったり、有難いことにすぐに歌う機会に恵まれました。今年の夏に延期されたバッハ国際コンクール入賞をこの1年の目標に掲げ、ピンチはチャンスと信じて精進します。

吉田 一貴

(声楽・パルマ在)

現在、イタリアでも、多くの音楽家達はコロナウイルスの為、演奏する場も奪われ、歌劇場も閉まり途方に暮れている状態です。その状況下で、彼らは必死に伝統を守る為に署名活動などを行い、州や国へ訴えかけています。そのお陰もあり、少しずつではあり

ますが、コンクールやオーディションを小規模、又はテープ審査などで開催されています。そして、音楽院のレッスンでは、声の事はもちろんのことですが、西洋音楽の中で培った人達の音楽を、間近で見て聴いて感じる事が出来るので、日本にいただけでは感じることのできない経験ができ、とても嬉しく幸せに感じております。

横山 瑠佳

(ピアノ・ミュンヘン在)

世界中でコロナウイルスが大流行し、留学中の楽しみであったコンサートや、予定していたコンクール、コンサート等、次々と中止となつてしまい、モチベーションを保つのが難しい日々が続きました。が、自分の為の時間を沢山作る事が出来、自身を見直す良い機会にもなりました。最近では、来たる演奏機会に備え、レパートリー拡大を目標に日々を送っております。またミュンヘンには素晴らしい仲間が沢山おりますので、室内楽の分野にも今まで以上に積極的に取り組んでいます。

黒田 哲平

(ピアノ・デトモルト在)

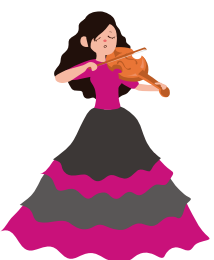
長年の憧れであった留学が叶い、数々のご支援とご縁に

心より感謝するとともに、音楽を勉強する幸せを噛みしめる毎日です。オーケストラと演奏したり、状況を見ては旅に出たりと、貴重な体験を沢山させていただいております！今後も、ヨーロッパでの生活が有意義なものとなるよう、何事にも真摯に取り組んで参ります。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

内尾 文香

(ヴァイオリン・ミュンヘン在)

コロナ禍の中ミュンヘンも11月から外出等規制が厳しくなりましたが、今(11月)は大学のレッスンは対面で行われています。また教会で演奏する機会にも恵まれ、その響きを肌で感じる事ができました。ヨーロッパまたアジア諸国から来る学生との交流は演奏のスタイルのみならず、学生生活の中でもそれぞれの国柄を知り興味深いです。今は多くの演奏会、講習会、コンクールが中止延期になつておりますが、再び積極的に活動できる日を心待ちに勉強しています。



「海外音楽研修」「海外音楽コンクール」助成対象者一覧

(敬称略)

助成対象者				助成対象者				助成対象者			
氏名	専攻			氏名	専攻			氏名	専攻		
1991年度				1998年度(続き)				2009年度			
久住庄一	声楽			新垣裕子	ヴァイオリン			盛田央香	声楽	○	
妻屋秀和	ピアノ	*		田倉泰真	ヴァイオリン			重松清伸	ピアノ		
江澤聖子	ヴァイオリン			島田真千子	ヴァイオリン	*		三浦文星	ヴァイオリン		
大友友子	ヴァイオリン			植田織子	声楽			上野金	フルート		
植村穂紀	ヴァイオリン	*		林邊正恵	ピアノ			2010年度			
小林純子	ヴァイオリン	*		中野翔太	ヴァイオリン	*		高橋さや	声楽	○	
藤村久明	ハーブ	*		野谷清玲	ヴァイオリン			島田清真	ピアノ		
鈴木大孝	ギター	*		瀬崎明日香	ヴァイオリン			多田有美	ヴァイオリン		
末鈴規子	トロンボーン	*		清田晶子	ヴァイオリン	*		小酒彩樹	ヴァイオリン		
1992年度				2000年度				2011年度			
佐野宏	声楽			宮部小牧	声楽			小門祐樹	声楽		
揚場征彦	ピアノ			松原野上	ヴァイオリン			林間彩慎	ピアノ		
田中晶子	ヴァイオリン	*		神谷太郎	ヴァイオリン	*		坂本佳行	ヴァイオリン		
伊藤亮太郎	ヴァイオリン	*		日下紗子	ヴァイオリン	*		永正矢子	ヴァイオリン		
宮澤恵人	ヴァイオリン	*		工藤すみれ	チェロ	*		黒金	ヴァイオリン		
飛田恵子	ヴァイオリン	*		中村弓子	ハーブ	*		2012年度			
富永理子	チェロ	*		藤井香織	ギター	*		竹下美香	声楽		
安楽子	ハーブ	*		2001年度				増本桃	ピアノ		
早川恵子	打楽器	*		山本美樹	声楽			村上絃文	ヴァイオリン		
1993年度				呉村容雄	ピアノ	*		2013年度			
横田みづ	声楽			川椎文雄	オルガン			谷加千沙	声楽	○	
有頭直里	ヴァイオリン	*		日下紗子	ヴァイオリン			佐藤淳理	ピアノ		
九井千尋	ヴァイオリン	*		三大将亮紀	サクソフォン			新井千愛	チェロ		
齋藤貴子	チェロ	*		2002年度				2014年度			
萩原英二	フルート	*		柳原由香	声楽			熊宮乃樹	声楽		
1994年度				長崎慶太	ピアノ			浜野男衣	ピアノ		
樋口あゆ	ピアノ			高田結真	ピアノ			浦山志美	ヴァイオリン		
M.A. シュリー	ヴァイオリン			高橋沙綾	ヴァイオリン	*		尾中日出鷹	ヴァイオリン		
小清水麗子	ヴァイオリン	*		高杉奈子	ヴァイオリン	*		2015年度			
礪波子	ヴァイオリン	*		高杉奈子	チェロ	*		中子大也	声楽	○	
小磯里子	ヴァイオリン	*		2003年度				佐藤悠那	ピアノ		
横山加子	ヴァイオリン	*		市原愛衣	声楽			齊藤春雄	ヴァイオリン		
赤松太	ヴァイオリン	*		本田智恵	ピアノ			長尾生	チューバ		
松神明	フルート	*		山本希子	ヴァイオリン			2016年度			
1995年度				武藤順子	ヴァイオリン			鈴木奈彦	声楽		
大井浩	ピアノ	*		2004年度				川口玲成	フォルテピアノ		
大森大	ヴァイオリン	*		富平安希	声楽			上野明子	ヴァイオリン		
志茂美	ヴァイオリン	*		中樫有希	ピアノ			二瓶瑛子	フルート		
玉井幸	ヴァイオリン	*		杉村香美	ヴァイオリン			2017年度			
石橋代	トランペット	*		2005年度				松原みなみ	声楽		
1996年度				白金あ	声楽			今井篤美	ピアノ		
小田里	ヴァイオリン			佐野聡	ピアノ			坪島夏	ヴァイオリン		
上里子	ヴァイオリン			川村隆伸	ヴァイオリン			2018年度			
清英有	ヴァイオリン			横坂真	チェロ			高橋維祐	声楽		
大裕子	ヴァイオリン	*		2006年度				仁田志誠	ピアノ		
安裕子	ヴァイオリン	*		江田雅子	声楽			小岡成司	ヴァイオリン		
篠崎美生	ヴァイオリン	*		江田卓貴	声楽			山根一	ヴァイオリン		
古川生崇	トランペット	*		江田真子	ヴァイオリン			2019年度			
1997年度				江田真子	ヴァイオリン			山花織	声楽		
泉良平	声楽			江田真子	ヴァイオリン			秋元孝	ピアノ		
増大弥	ピアノ	*		江田真子	ヴァイオリン			小川恭	ヴァイオリン		
高橋博	オルガン	*		江田真子	ヴァイオリン			田原綾	ヴァイオリン		
山川奈	ヴァイオリン	*		江田真子	ヴァイオリン			2020年度			
山崎貴	ヴァイオリン	*		江田真子	ヴァイオリン			櫻井愛子	声楽		
田村奈	ヴァイオリン	*		江田真子	ヴァイオリン			吉田瑠佳	ピアノ		
崎中貴	ヴァイオリン	*		江田真子	ヴァイオリン			横山平	ヴァイオリン		
中川り	ヴァイオリン	*		江田真子	ヴァイオリン			黒荒内	ヴァイオリン		
早大司	ヴァイオリン	*		江田真子	ヴァイオリン			(注)			
伊藤隆	ヴァイオリン	*		江田真子	ヴァイオリン			・*は海外音楽コンクール助成対象者			
1998年度				江田真子	ヴァイオリン			(同助成は2003年度以降廃止)			
黒木香	声楽			江田真子	ヴァイオリン			・(a)と(b)とは同名の別人			
豊嶋起	声楽	*		江田真子	ヴァイオリン			・○は1年間助成を2回助成決定			
増田久	声楽	*		江田真子	ヴァイオリン						
伊藤子	ピアノ	*		江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						
				江田真子	ヴァイオリン						